

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	一般小売店〔土産〕 （店員）	・北海道観光に関していえば、観光客が増加してくる。去年は愛知万博や沖縄人気に押され客数が減っていたが、今年は大手ツアー会社が北海道観光に力を入れていると聞いている。これから東京や大阪の景気が良くなると、北海道に旅行、ゴルフに行こうという人が増えて、観光面ではプラスの要素が増えてくる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・気温によるところも大きいですが、2～3か月後はサッカーワールドカップといった世間的に明るい行事があり、客の購買意欲も前向きになってくるのではと期待している。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・本州の大手企業から始まり、段々と中小企業に景気回復が浸透してきており、北海道もまだ実感は乏しいものの、先行きに明るい材料がある。
		百貨店（販売促進担当）	・婦人ファッションが上向きになっている。季節の端境期である2月後半から3月にかけて販売数量が上向いたということは、春の実売期、あるいは初夏商品の紹介期にやや期待が持てそうである。
		スーパー（店長）	・販売量でみると、1月より2月、2月より3月と、前月より右肩上がりのトレンドで順調に販売量が伸びてきている。
		コンビニ（エリア担当）	・若干ではあるが客の買上個数が増えている。ただ、依然として同じ種類の商品であれば価格の安い方を選ぶ傾向が強い。
		コンビニ（エリア担当）	・週末の売上が安定してきていることから、暖かい季節になれば、レジャー関係の消費に期待が持てる。
		衣料品専門店（店員）	・収入に見合ったニーズが客から出てきている。
		家電量販店（地区統括部長）	・地上デジタル放送が6月から開始されることに加えて、サッカーワールドカップもあり、薄型テレビの需要が高まる。
		乗用車販売店（営業担当）	・販売時に客が商談に乗ってくるようになってきている。
		観光型ホテル（経営者）	・知床の重油汚染、雌阿寒岳の水蒸気爆発など、自然災害が不安材料ではあるが、今年も愛知万博のような大きなイベントがなく、自然といやしを求める観光客の増加が期待される。
	観光型ホテル（スタッフ）	・若者は低単価商品に飛びついているが、団塊世代などの熟年層には自然体験に単価の高い食事をプラスした旅行が伸びてきている。	
	旅行代理店（従業員）	・国内旅行、海外旅行ともに5月以降の先行受注状況が好調に動いている。夫婦旅行よりも家族旅行が増加するなど、客のすそ野も広がってきた。	
	旅行代理店（従業員）	・徐々に客数が増えてきていることが実感される。	
	変わらない	商店街（代表者）	・客の消費動向をみると、景気が上向くような前向きの姿勢ではなく、守りの姿勢に入っているように感じる。
		百貨店（売場主任）	・春物のコート、スーツの動きが良くなってきていることから、今後、夏物に向けては、クールビズ対応などもあり、動きとしては良くなる。
		スーパー（店長）	・例年であれば内祝いギフトや新生活マーケットで指数が上がるシーズンであるが、今年も大きな変化もなく、盛り上がり欠けており、先行きの不安を感じる。
		スーパー（企画担当）	・長期予報では今夏は平年より高気温で推移すると言われており、消費に対する好材料が挙げられる反面、6月～7月にかけて開催されるサッカーワールドカップは日用品の消費にはむしろマイナスの要因になる。
		家電量販店（経営者）	・先が分からないと言ったほうが適当かもしれない。大型量販店への流れが加速しているようである。
家電量販店（店員）		・客数、売上とも前年とあまり変わらない。	
乗用車販売店（従業員）		・販売量の動きが良くなっているので、今後についてもこのまま続く。	
その他専門店〔医薬品〕（経営者）		・ダイエット等の季節商品が動き出しても、客数の減少と相殺しそうなほどであり、先行き不安である。	
高級レストラン（スタッフ）		・今月は夕食の単価がこの半年間で一番良かった。しばらく前年比がマイナスだったので、久しぶりの明るい兆しであり、ようやく外食費にも回復傾向がみられる。	
スナック（経営者）		・会社の交際費が少なくなったことで、接待も少なくなり、クラブ関係の店は厳しいまま変わらない。	

		設計事務所（職員）	・自然環境から集合住宅への需要が高い北海道だが、構造計算書偽装事件の影響で、確認審査期間の延長、設計法限定によるコスト上昇、設計内容への不信感など購入意欲をそぐ事態が集合住宅を大きな柱とする建設業界に大きな影響を及ぼし始めている。
		住宅販売会社（従業員）	・職業上の収入の不安定な状況が、将来的な不安につながっているようであり、住宅に対する見方がシビアである。
やや悪くなる		コンビニ（エリア担当）	・銀行等の金利引上げ等が実施されているものの、末端の消費者に届くまでには時間がかかる。また新規スーパー等の出店により、更に競争が激化する可能性が高く、公共工事や基幹産業の衰退等から景気は若干悪くなる。
		衣料品専門店（店長）	・客との話から、医療費の値上げや年金問題が消費者の戸惑いになっているので、それらが解決しない限り良くはならない。
悪くなる		スナック（経営者）	・段々と人出が少なくなってきているが、スナックやクラブに関しては中年層が出てこないと厳しく、今後についてももっと悪くなる。
		タクシー運転手	・タクシーは平成14年の規制緩和以降、札幌では会社数、台数が激増しており、今年になっても新規参入が続いている。個人タクシーも増えているので、競争が激しくなっている。札幌市内ではタクシーの利用者の総数が減っているため、タクシー会社、ドライバーともこれからますます大変になっていく。
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	食料品製造業（団体役員）	・業界では、道外からの受注量増加が見込まれるため、景気の上向き感が生じている。
		家具製造業（経営者）	・住宅着工が比較的堅調に推移している。
		金属製品製造業（経営者）	・本州方面での景気が活発になっている中で、本州方面のマーケットで売られているものについては少しずつ好調さがみえてきている。ただ道内の動きが少なく、楽観はできない状況である。
		通信業（営業担当）	・受注が比較的堅調に推移していること、また取引先の動向として需要増に対応するための人材確保など、ここ数年ではなかった動きがみられるため、もう少し景況感が上昇する機運を感じる。
		広告代理店（従業員）	・4月1日に函館五稜郭の新タワーがオープンするほか、航空路線では、4月1日に函館～女満別便が就航、6月1日に函館～ソウル便が就航と、観光面で大きな動きがあり、全国的にも函館が注目されているため、広告業にも大きなチャンスが出てくる。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・次年度予算を前倒しで執行するゼロ国債の執行が出てくるので、その効果が期待される。
		その他非製造業〔機械卸売〕（従業員）	・本州の景気動向が強気なことから、北海道も本州の動向に引きずられ、機械類の更新などの設備投資が生じる。
変わらない		輸送業（支店長）	・本州の景気回復に引きずられる形で業績の回復している企業もあるが、建築建材等が相変わらず厳しい状態にある。ただし鉄骨については1～2月の受注量の合計が前年比で4割増加の状態となり、今後の回復に向け明るい見通しとなってきた。毎年増加してきた外航コンテナは、冬の天候不順及び紙の輸出減少等による航海数の減少、燃料費のアップによる減便などがあり、今年は道内全体で5～10%の減少に転ずる見込みとなってきた。
		金融業（企画担当）	・公務員の給与削減が実施され、民間企業の賃上げもわずかな伸びにとどまる。所得環境が厳しいため、個人消費や住宅投資は期待できない。企業収益も原材料価格の上昇が続き厳しさが残る。住宅着工は、札幌市の建築物高さ制限が導入され、高層マンションが落ち込む。総じて道内企業の停滞感は続く。
やや悪くなる		輸送業（営業担当）	・原油の高騰、自動車税の増税、資材費の値上げの三重苦により、見通しはかなり厳しいものになる。
		-	-
		-	-
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・求人数の増加が長期にわたって緩やかな右肩上がりが続いている。
		学校〔大学〕（就職担当）	・採用試験において、内定通知が早くなることが予想され、採用枠の拡大とともに良くなることが予測される。

変わらない	求人情報誌製作会社 (編集者)	・本州方面からの製造業の求人数が増加傾向にある。ただ、当地域だけに絞ってみると、求人件数に大きな変化はない。
	求人情報誌製作会社 (編集者)	・求人件数は今年に入り前年比で6～7%プラスの高いレベルで安定しており、傾向に大きな変化はない。先月、比較的好調だった正社員の求人件数は、今月に入り前年並みに落ち着いている。しばらくは同じような状況を維持するのではないかと感じている。
	職業安定所(職員)	・派遣、業務請負、就労地が道外の求人が増加傾向にあり、充足せずに繰越しとなる求人が増えている。求職者は7.9%増加しており、ミスマッチが続いている。
やや悪くなる		
悪くなる	-	-